

3・11 東日本大震災

証言・仙石線乗務員の組合員

「約50名の乗客を小学校に避難誘導！」

その後、その小学校にまでゴーと津波が押し寄せた」



「14時46分すぎ、仙石線野蒜駅を発車した直後、地震が発生しました。地震を知らせる無線を傍受し、駅から300メートル付近に停車しました。運転士と連絡し、乗客にけが人がいないことを確認し、野蒜小学校の生徒を含む約50人の乗客を降車させ、指定された野蒜小学校に避難誘導しました。小学校では避難してきていた住民もいて、体育館に避難しました。会社の携帯で連絡したのですが、電話はつながりませんでした。

15時40分頃、仮設トイレをつくるのを手伝ってほしいと頼まれ、設置の手伝いをしていると、地元の人が「津波がくるから非難しろ」と走って知らせにきました。すぐに校舎の2階に避難すると、ゴーッと音を上げて津波が襲ってきました。校舎1階は水に浸かってしまいました。水が引いたあと、体育館にいた運転士を捜しましたが、見つかりませんでした。校庭には流された人がいて、その人たちの救助を手伝いました。

翌朝、校舎3階で運転士を見つけました。運転士に聞くと、体育館でバスケットゴールにつかまり、2階にいた住民に引き上げてもらい、津波に流されずに済んだとのことでした。校舎に避難していた乗客を確認しましたが、20数名しか確認できませんでした。

地震の時は、周りの建物の崩壊などはなく、また津波発生まで約1時間近くもありました。4両編成の車両は、津波でV字になり流されました。

海岸から、小学校までは1キロメートルありますが、地元の人も『ここまでくるとは思わなかった』と話していました」